

アゼルバイジャン共和国 (Republic of Azerbaijan)

1. 一般事情

| | |
|----|---|
| 面積 | 8万6,600㎢（日本の約4分の1、北海道よりやや大きい程度） |
| 人口 | 940万人（2013年：国連人口基金） |
| 首都 | バクー |
| 民族 | アゼルバイジャン系（90.6%）、レズギ系（2.2%）、ロシア系（1.8%）、アルメニア系（1.5%） （アゼルバイジャン共和国国家統計局） |
| 言語 | 公用語はアゼルバイジャン語（テュルク諸語に属し、トルコ（共和国）語やトルクメン語に近い） |
| 宗教 | 主としてイスラム教シーア派 |

2. 政治体制・内政

| | |
|----|--|
| 政体 | 共和制 |
| 元首 | イルハム・アリエフ大統領（任期5年、2008年10月二選、2013年10月三選） |
| 議会 | 一院制（任期5年、定数125、前回選挙は2010年11月） |

3. 経済

| | |
|--------------|--|
| 主要産業 | 石油・天然ガス、石油製品、鉄鉱等 |
| 国民総生産（GDP） | 735.4億ドル（2013年：IMF） |
| 一人当たりGDP | 7,114.2ドル（2012年：IMF） |
| 経済（実質GDP）成長率 | 5.8%（2013年：IMF） |
| 物価上昇率 | 2.4%（2013年：IMF） |
| 失業率 | 6.0%（2009年：IMF） |
| 貿易額 | ・輸出：213.60億ドル ・輸入：65.99億ドル （2010年：IMF） |
| 主要貿易品目 | ・輸出：原油、石油製品、その他 ・輸入：設備・機械類、食料類、車両・スペアパーツ類 （2012年：アゼルバイジャン国家統計委員会） |
| 主要貿易相手国 | ・輸出：イタリア、インド、フランス、インドネシア、イスラエル ・輸入：トルコ、ロシア、ドイツ、米国、中国 （2012年：アゼルバイジャン国家統計委員会） |
| 通貨 | マナト（Manat：1994年1月1日導入） （CIS統計委員会） |
| 為替レート | 1ドル＝0.78マナト（2014年5月現在：アゼルバイジャン中央銀行） |



4. 農業

| | |
|--------|-------------------------------|
| 農業生産額 | 55億6,651万米ドル（2012年） |
| 主要農畜産物 | 牛乳（18.8%）、小麦（10.8%）、トマト（9.3%） |
| 農地面積 | 耕地：189.7万ha、放牧地：264.1万ha |

5. 日本との関係

| | |
|------|-----------------|
| 在留邦人 | 35人（2013年11月現在） |
|------|-----------------|

（出所）

1-3：「一般事情」「政治体制・内政」「経済」：外務省
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/azerbaijan/index.htm>

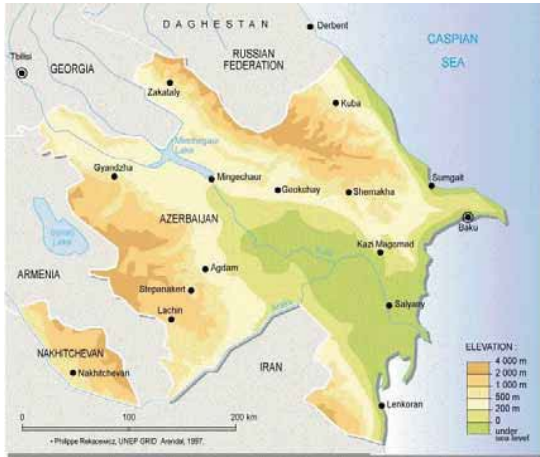
4：FAOSTAT

5：外務省

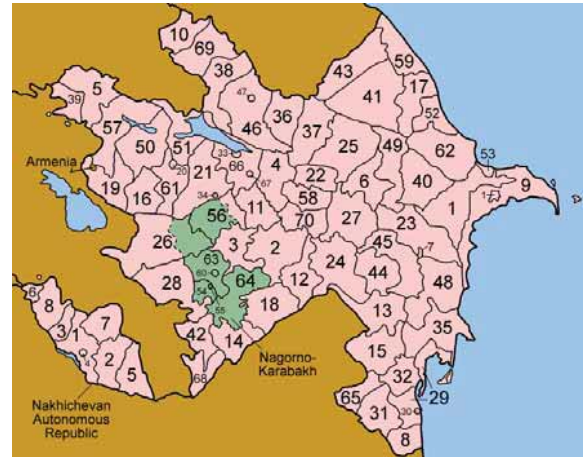
1. 農林水産業概況

(1) 地理

アゼルバイジャンは、北緯 38～42 度、東経 44～55 度、南コーカサス地方に位置する。北はロシア、北西はグルジア、西はアルメニア、南はイランと国境を接している。カスピ海沿岸、大コーカサス山脈、中央平原と、それぞれ異なる特徴を持った 3つの地帯から構成される。国土のおよそ半分が山地である。土壌は主として灰色土、山岳部は褐色森林土、平地では黄土である。植生は乾燥ステップ、半砂漠、高山草原、山岳部は広葉樹林である。水系では全ての河川がカスピ海に注ぎ、最長のクル河は 1,515 kmである。



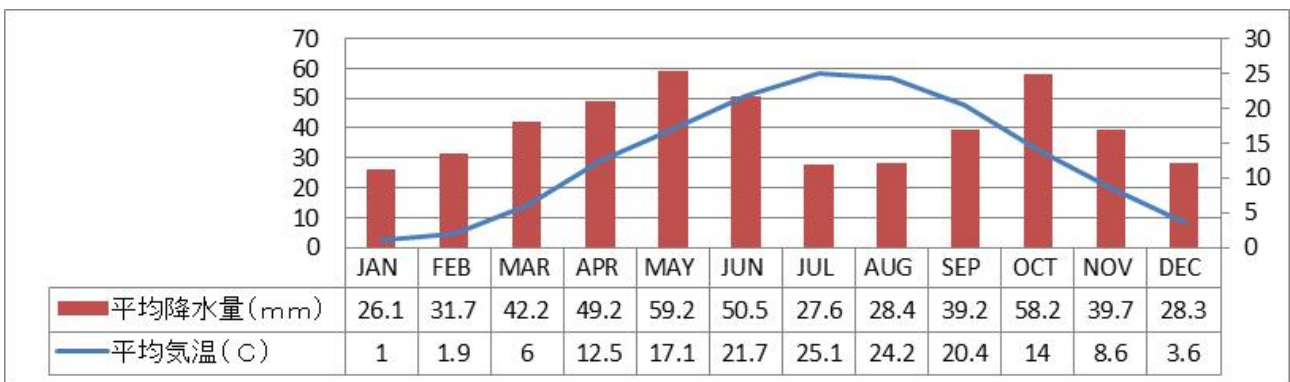
アゼルバイジャンの地形図



アゼルバイジャンの地域

(2) 気候

アゼルバイジャンの気候は多様であり、9～11の気候帯に属す。ランカラン低地およびタリシュ山地では亜熱帯乾燥および亜熱帯湿潤気候、コーカサス高山帯では氷雪気候である。山岳部の気温は 5～27℃、低地では 5～35℃である。1月の平均気温は山岳部では -10℃、低地では 4℃である。平均降水量はコーカサス山脈の山麓では年間 200 mm、ランカラン低地では 1,200～1,700 mmである。また水系が非常に豊かであり、水力発電に好都合であるとともに、貯水池、人工灌漑システムの建設に適している。



出所：weatherbase (<http://www.weatherbase.com/>)

月平均気温と月平均降水量(左:mm、右:°C)¹⁹

¹⁹ 気温：131都市、109年間平均。降水量：131都市、108年間平均。

(3) 農業政策の特徴

アゼルバイジャン共和国は、国土の 55.1%が農業用地であるが、石油・天然ガス資源が豊富だったため、GDP 全体における農業の割合は 7%程度に過ぎない。

1991 年のソ連崩壊により土地改革が実施され、1995 年から農業部門における改革が進められた結果、従来の大規模な農業形態に代わり、多数の小規模農家が誕生した。耕地面積が 5 ha 以下のこのような小規模農家は農家全体数の 99%を占める。また広範囲にわたる私有化が行われた結果、土地、家畜、農業技術などが国家所有から民間所有へと移行した。

1993 年から 2003 年にわたるヘイダル・アルエフ大統領による農業改革により、国家所有および地方自治体に譲渡された土地は、購入・販売、利用賃貸などにより住民へ提供された。土地改革の結果、全てのコルホーズ（協同組合農場）、ソフホーズ（国営農場）は 2,032 の農場へと再編された。最終的には 344 万 2,778 人が土地を入手し、現在では、国家所有の土地が 491 万 3,639 ha で全体の 56.9%、地方自治体所有が 203 万 2,744 ヘクタールで全体の 23.5%、民間所有が 169 万 5,123 ha で全体の 19.6%となった。

最終的には農業生産者の数は 120 万 8,700 人、そのうち 99.98%が個人生産者、0.02%が国営農場従事者である。また 7 万 8,648 の世帯が、ダーチャ（自家栽培）をベースに農作物の生産、加工、販売に携わっている。農業生産者が所有しているあるいは賃貸している土地は 232 万 4,200 ha であり、そのうち 69.3%が家族農場、11.4%が家庭農場、2%が集団農場である。平均で、農場生産者 1 人あたり 1.92 ha の土地を所有していることになる。

(4) 農業セクター概況

1) 土地利用

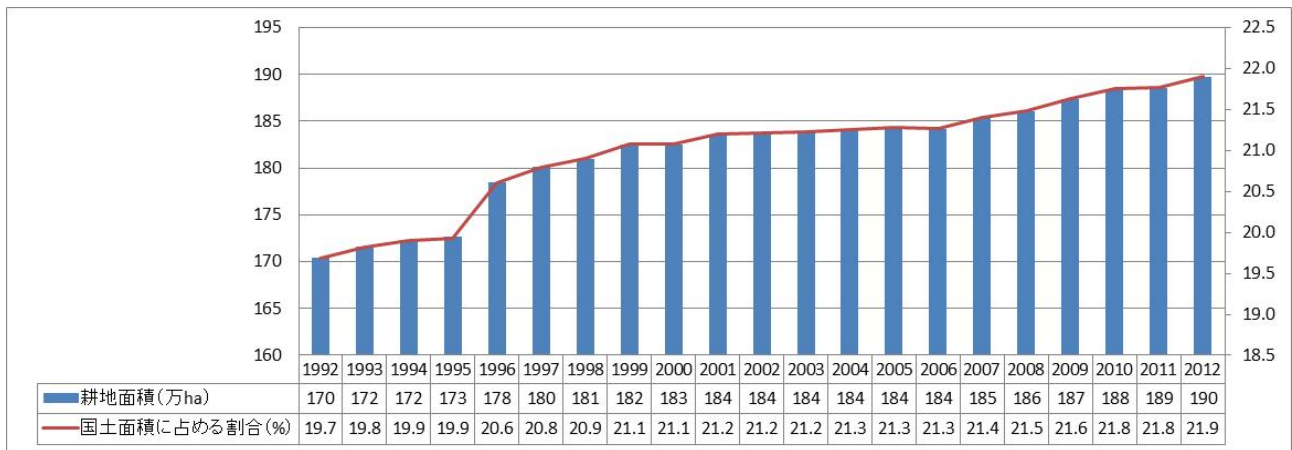
アゼルバイジャンの国土全体の 866 万 ha のうち、55.1%が農地である。2012 年には 476 万 8,000 ha が農地として利用されている。気候的には温暖で、日光の照射も多いため農業に適しているが、山岳地帯の特徴として土地それぞれの規模が小さい。農地のうち 190 万 ha が耕作地、264 万 ha が、夏と冬の牧草地として利用されている。また農地の一部は多年生植物の植え付けに利用されている。また牧草地のおよそ半分は国の穀倉地帯であるクラ・アラス低地に集中している。

アゼルバイジャンと日本の土地利用状況(万 ha)

| 国 | アゼルバイジャン | | | | | | | 日本 |
|----------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|------------------|
| | 1992 | 1995 | 2000 | 2005 | 2010 | 2011 | 2012 | |
| 国土面積 | 866.0 | 866.0 | 866.0 | 866.0 | 866.0 | 866.0 | 866.0 (100.0%) | 3,780 (100.0%) |
| 農地 | 444.6 | 448.9 | 474.0 | 475.9 | 476.7 | 476.9 | 476.8 (55.1%) | 455 (12.0%) |
| 耕地面積 | 170.5 | 172.6 | 182.6 | 184.3 | 188.4 | 188.6 | 189.7 (21.9%) | 425 (11.2%) |
| 永年作物地 | 31.0 | 31.0 | 23.7 | 22.2 | 22.7 | 22.7 | 23.1 (2.7%) | 30 (0.8%) |
| 永年牧草・放牧地 | 243.1 | 245.3 | 267.8 | 269.4 | 265.5 | 265.6 | 264.1 (30.5%) | 0 (0.0%) |
| 森林 | 93.6 | 93.6 | 93.6 | 93.6 | 93.6 | 93.6 | 93.6 (10.8%) | 2,500 (66.1%) |
| その他 | 294.0 | 289.7 | 258.4 | 257.1 | 256.3 | 256.1 | 256.2 (29.6%) | 691 (18.3%) |
| 陸水 | 33.8 | 33.8 | 40.0 | 39.4 | 39.4 | 39.4 | 39.4 (4.6%) | 134 (3.5%) |

出所：FAOSTAT、日本国農林水産省

(カッコ内は国土面積に占める割合)

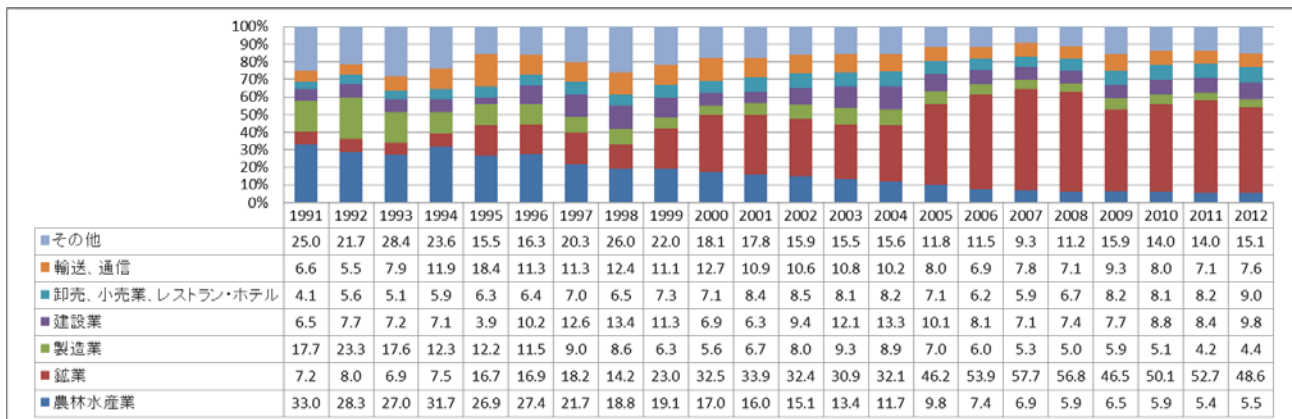


出所：FAOSTAT

耕地面積の推移(左:万ha、右:%)

2)国内産業における農業の比重

アゼルバイジャンは石油、天然ガス、鉱物資源などのエネルギー産業、果実、野菜、タバコなどの農業が盛んである。化学産業、非鉄冶金、鉄鋼業、軽産業などの部門が輸出に大きく貢献している。また工作機械、農業機器、自動車、衣服、既成食品などは輸入している。アゼルバイジャンのGDPの躍進は主として、天然ガス、石油の輸出にある。2006年の第3四半期までではアゼルバイジャン全輸出における原油の割合は60.7%、原油製品は24.5%とその大部分を占める。こうした資源が豊富にあるため、農業のGDPに占める割合は高くはない。

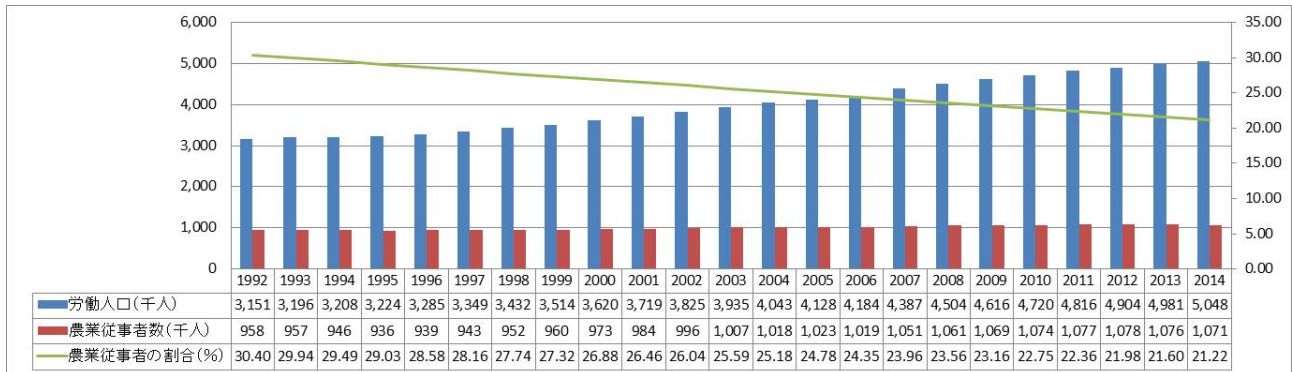


出所：国連統計

産業構造(GDP構成比)の推移(%)

3) 農業就業人口

旧ソ連時代およびソ連崩壊直後における農業従事者の数は微増傾向にあるが、全労働人口の増加率よりも下回っていることから、農業従事者数の割合で見ると1992年と比較すると約10ポイント減となっている。



出所：FAOSTAT

農業就業人口の推移(左:千人、右:%)

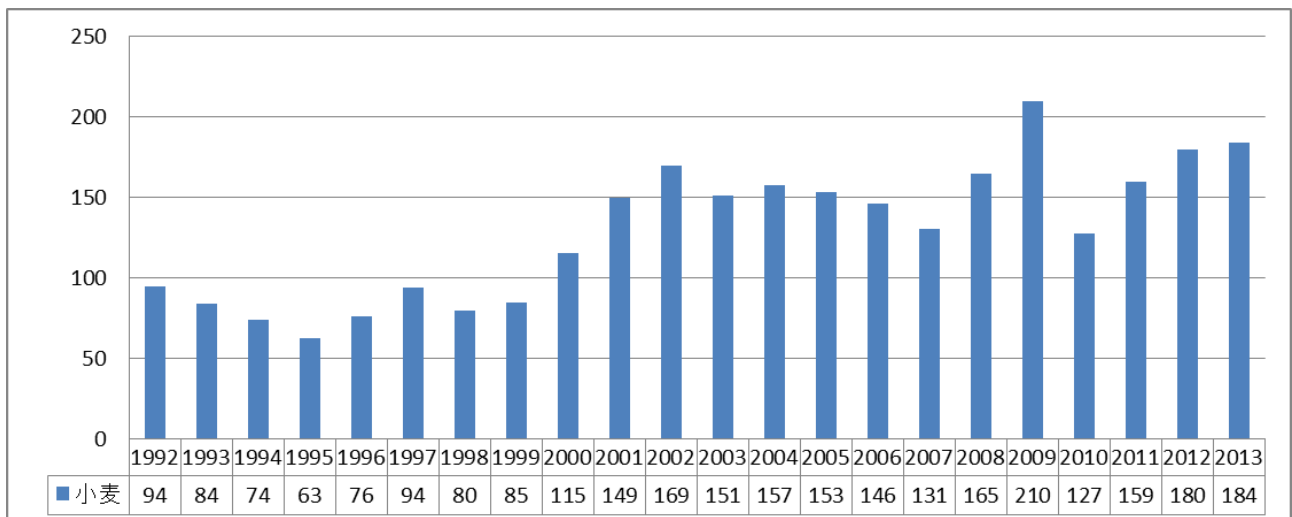
4) 農業生産の動向

① 主要農産物の生産動向

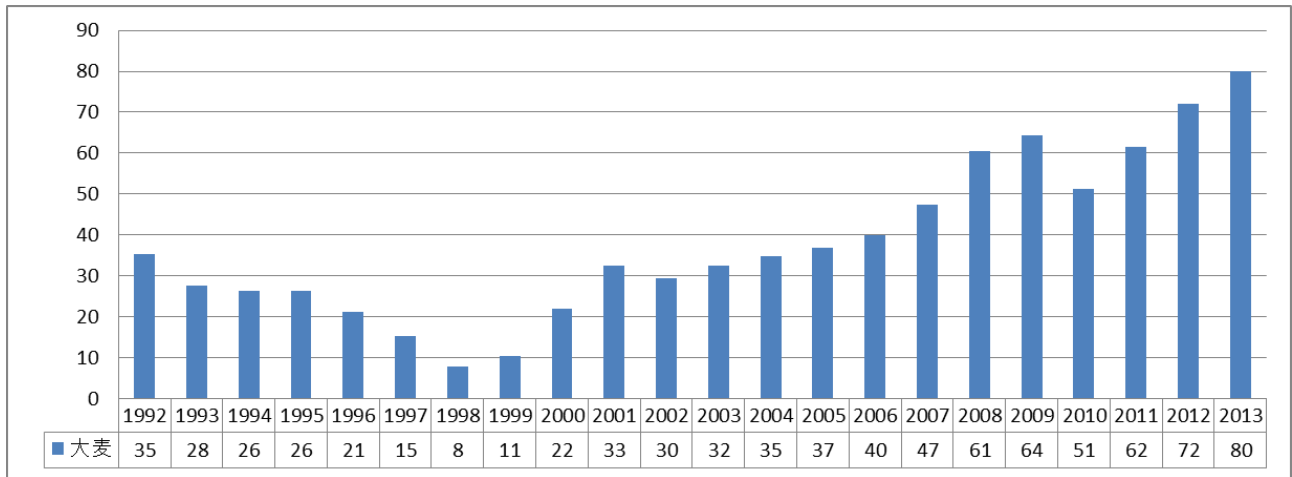
昔から農業、とりわけ穀物栽培が盛んであり、農耕の水準は高く、コーカサス地方における穀物、綿花、タバコ栽培、羊毛の生産の中心地であった。しかし、ソ連崩壊によりロシアやウクライナでの市場を失ったこと、1988年からのアルメニアとの戦争による予算の不足により、農業部門の生産性は大きく落ちた。

例えば、1995年の農業生産額全体は、1990年と比較すると2分の1に、タバコは約6分の1、ブドウは4分の1にまで減少し、穀物は35%、ジャガイモは17%、スイカは38%減少した。

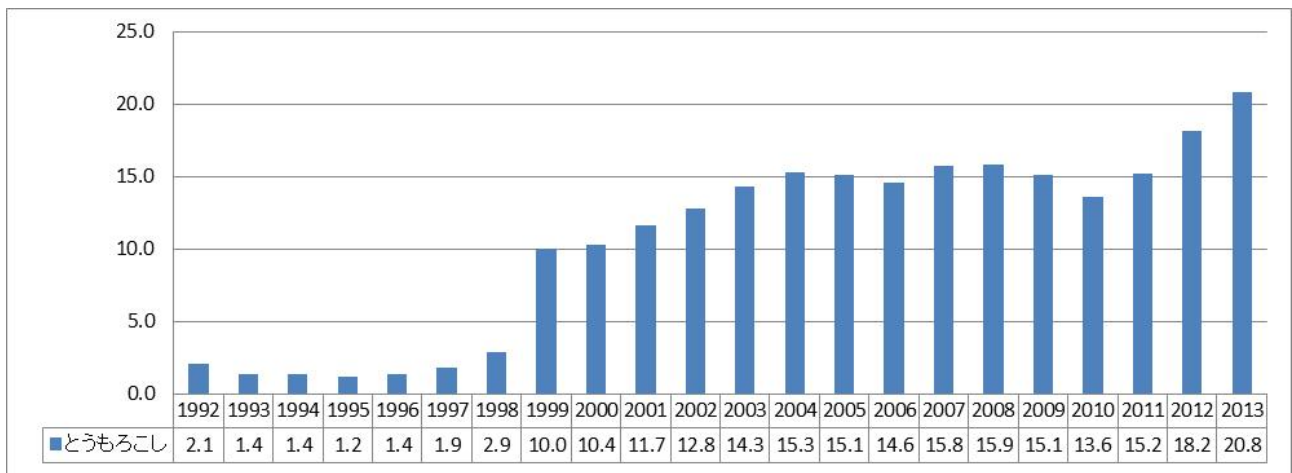
しかしアリエフ大統領による農業改革は順調に進み、2004年の播種面積は1995年と比較して107%となり、実質上8万8,100 ha増加した。農業生産者は、食糧安全性における戦略的意義のある農作物の生産に注力し、2004年の穀物栽培面積は1995年と比較して、1.3倍の81万4,900 ha、ヒマワリの種は7.1倍の1万1,300 ha、野菜は2.9倍の7万7,200 haとなった。2013年の生産量は穀物全体が285万8,450トン、ジャガイモが99万2,780トン、野菜が166万9,693トン、果物が96万78トンだった。



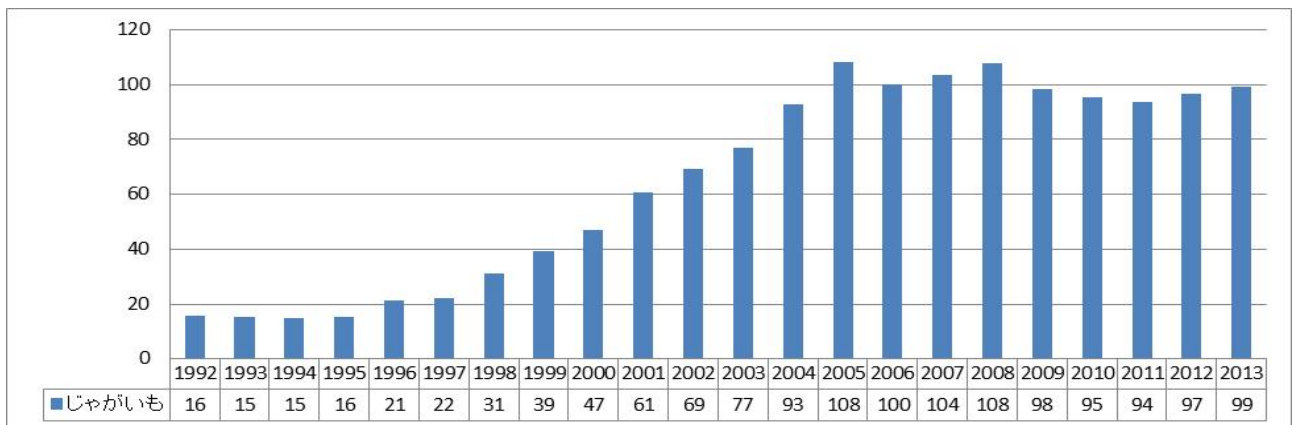
小麦の生産量の推移(万トン)



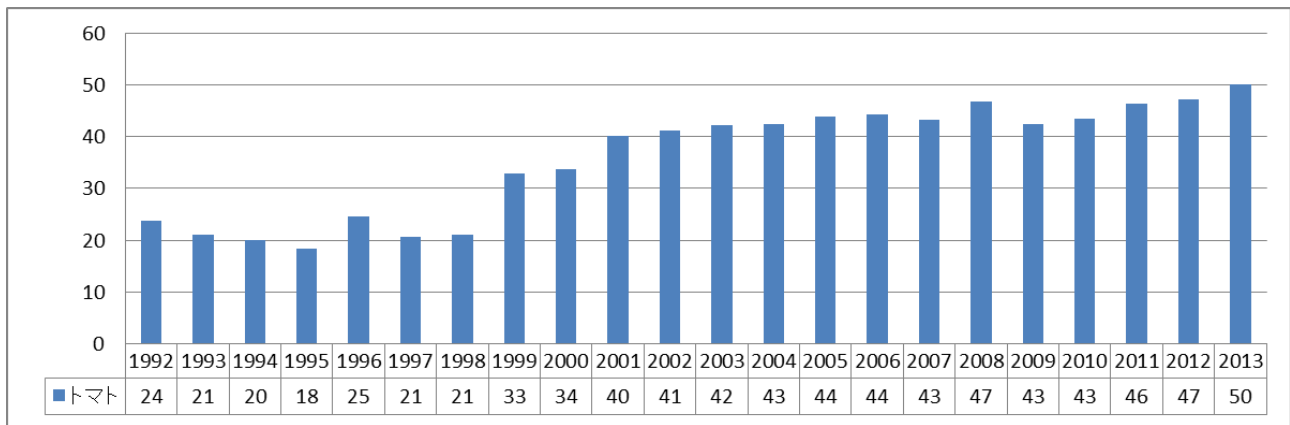
大麦の生産量の推移(万トン)



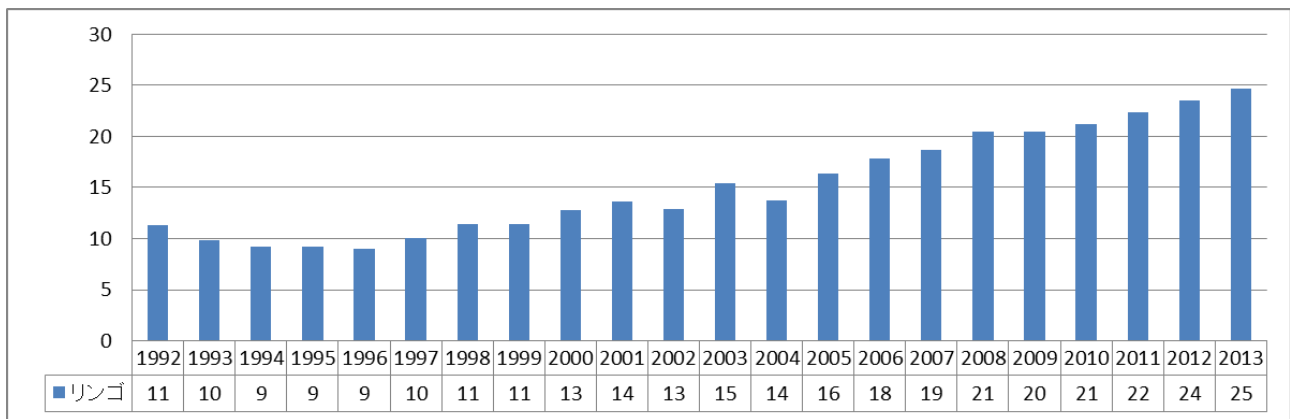
とうもろこしの生産量の推移(万トン)



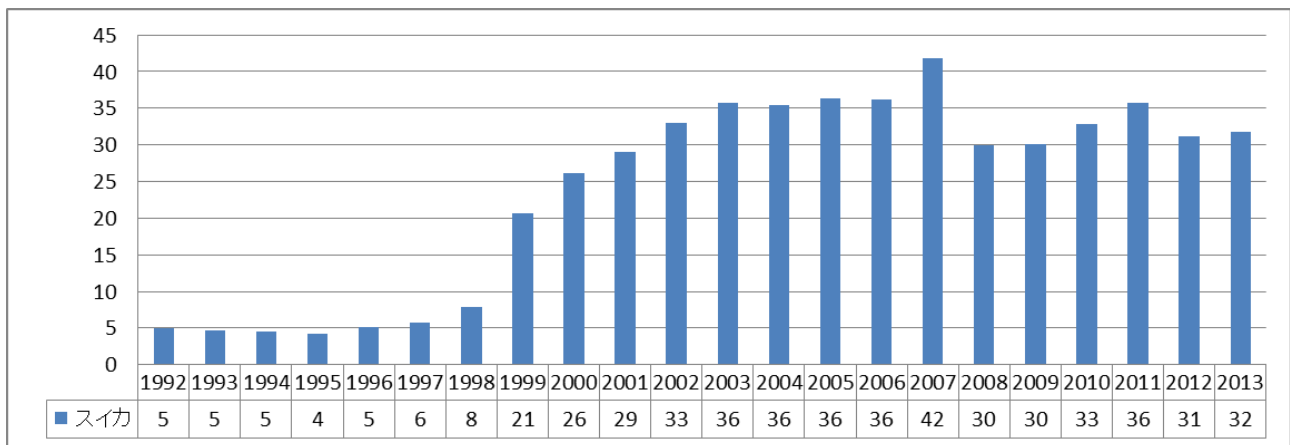
ジャガイモの生産量の推移(万トン)



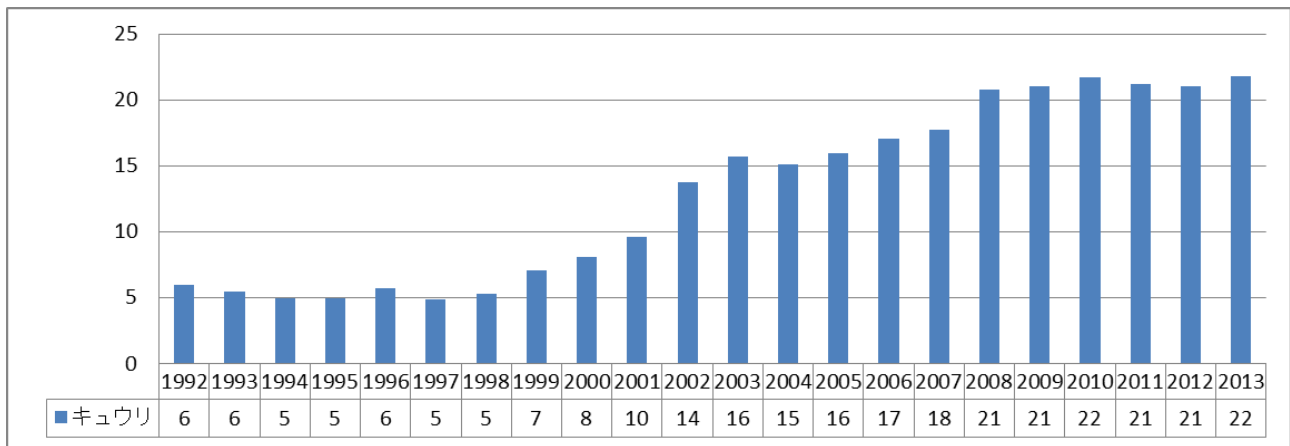
トマトの生産量の推移(万トン)



リンゴの生産量の推移(万トン)



スイカの生産量の推移(万トン)



キュウリの生産量の推移(万トン)

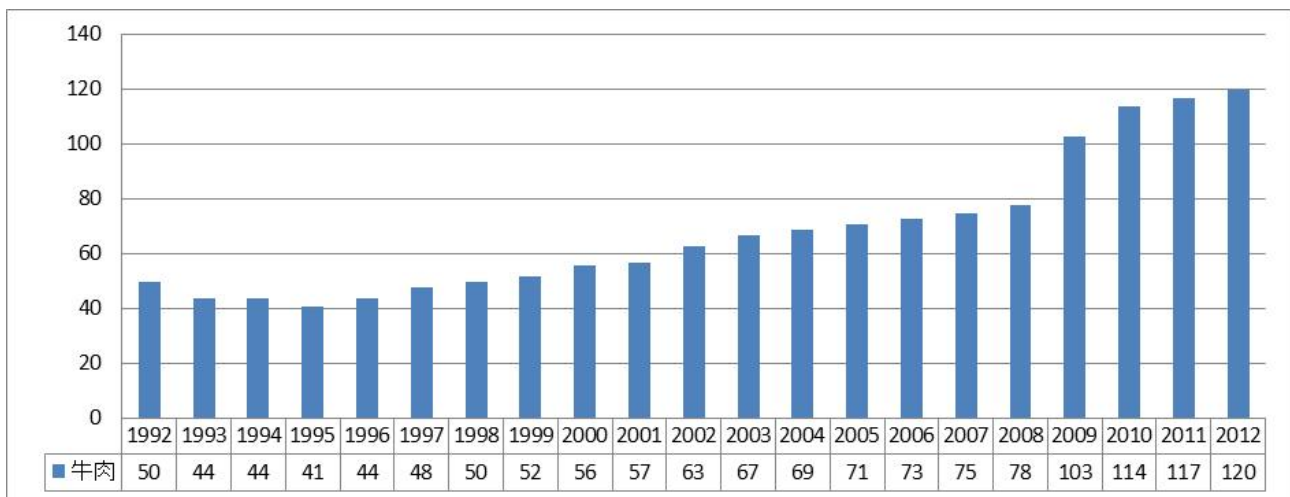
※以上 8 点、出所：FAOSTAT

②主要畜産物の生産動向

従来よりアゼルバイジャンでは遊牧民族の間で羊の牧畜が盛んであり、1930 年代より本格的な畜産が始まった。しかし 1990 年代初めにはその生産は落ち込み、例えば牛は 2 万～3 万頭、羊・ヤギは 20 万～30 万頭、肉の生産は 3 万～4 万トン、牛乳は 4 万～5 万トンにまで減少した。

そこで 1996 年から改革が始まり、社会的貢献に応じ、家畜が無償提供されるようになった。国は民族単位での民間農場の形成に注力し、毎年、集団農場に対しては、国営農場所所有の羊が 1,500～2,000 頭、民間農場所所有の羊が 3,000～4,000 頭販売され、外国の最先端の技術や知識について情報提供している。また 1998 年からは、集団農場に対し土地税以外の全ての税が免除されている。

これらの改革の結果、1996 年から畜産物の生産は再び上昇傾向を示し、2003 年には 1995 年と比較して、家畜の生産が 56 万 1,000 頭増加した。これは 33.3%増に相当する。²⁰



牛肉の生産量の推移(千トン)

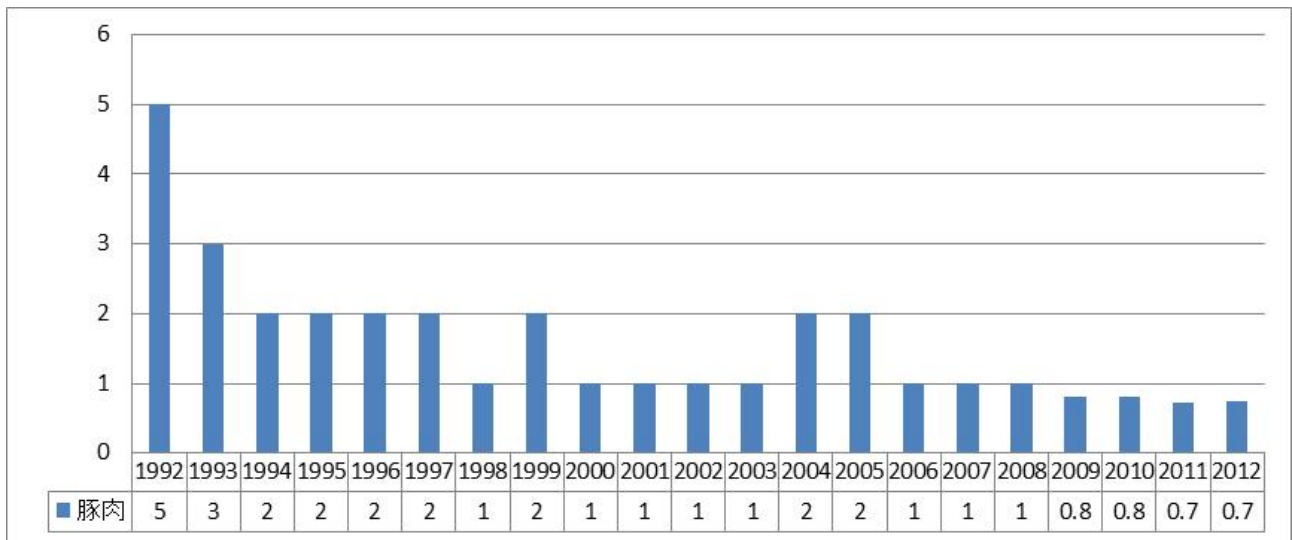
²⁰ 参考文献

JICA 事業事前評価表（国際協力機構東・中央アジア部中央アジア・コーカサス課）

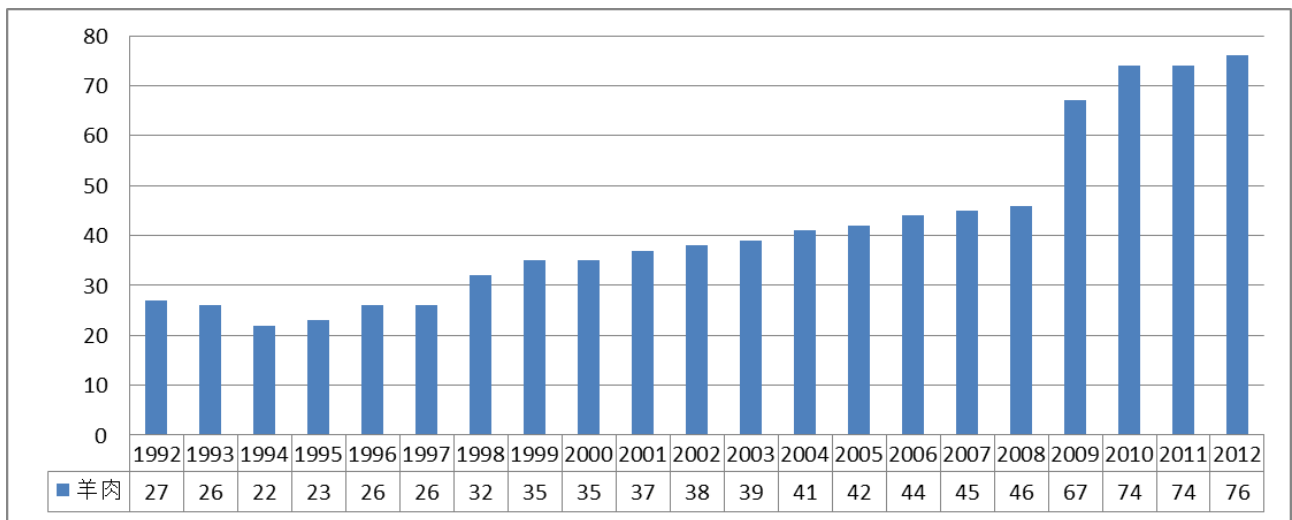
http://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2011_1061160_1_s.pdf

アゼルバイジャン共和国大統領府 大統領文書 農業

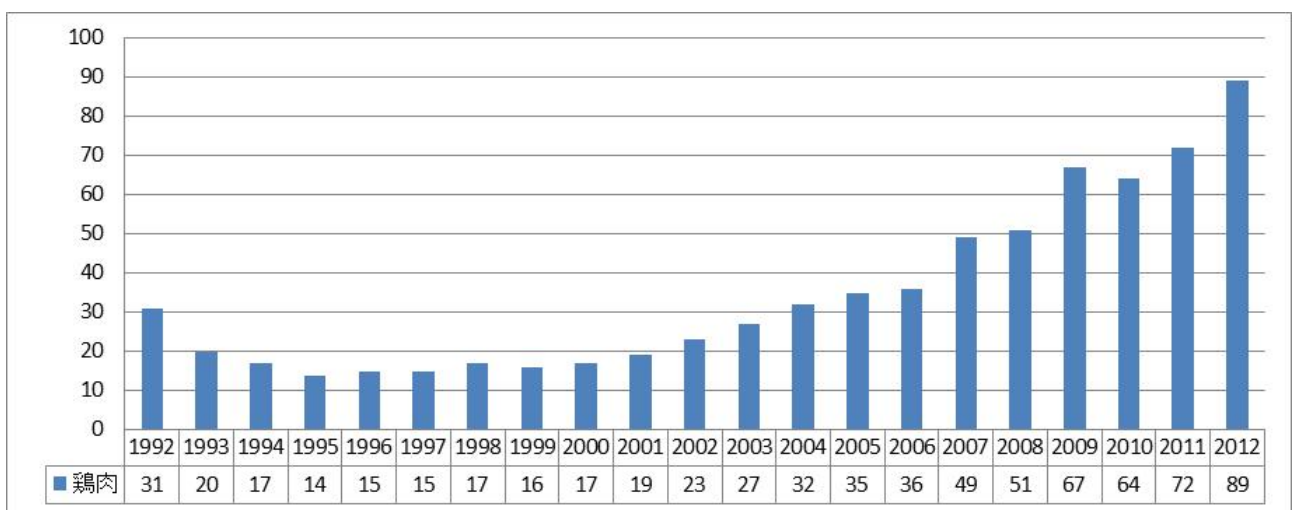
http://files.preslib.az/projects/republic/ru/azr3_3.pdf



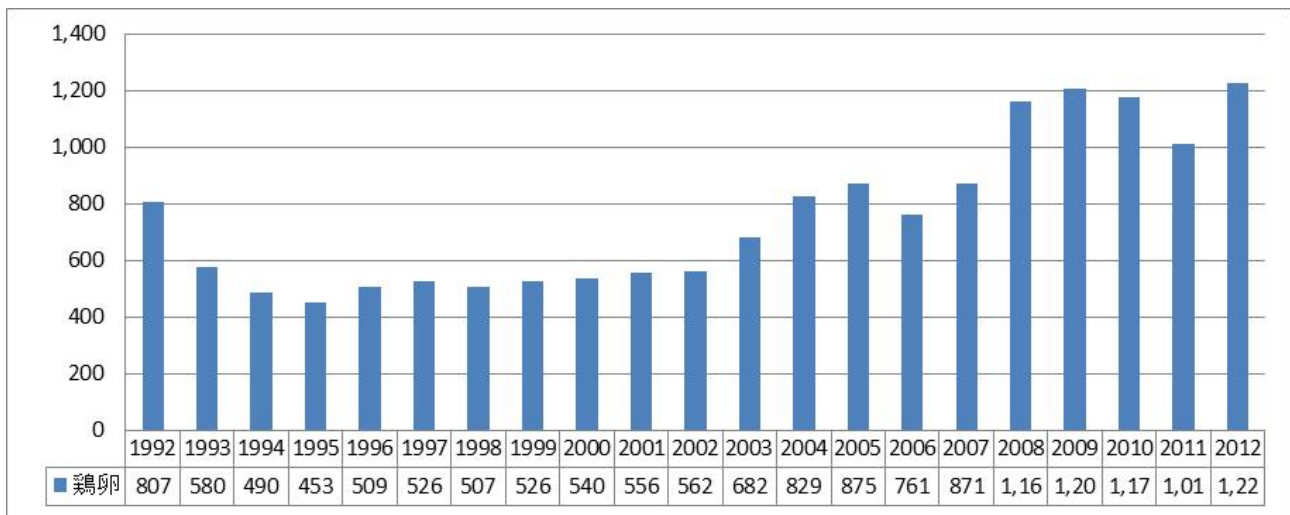
豚肉の生産量の推移(千トン)



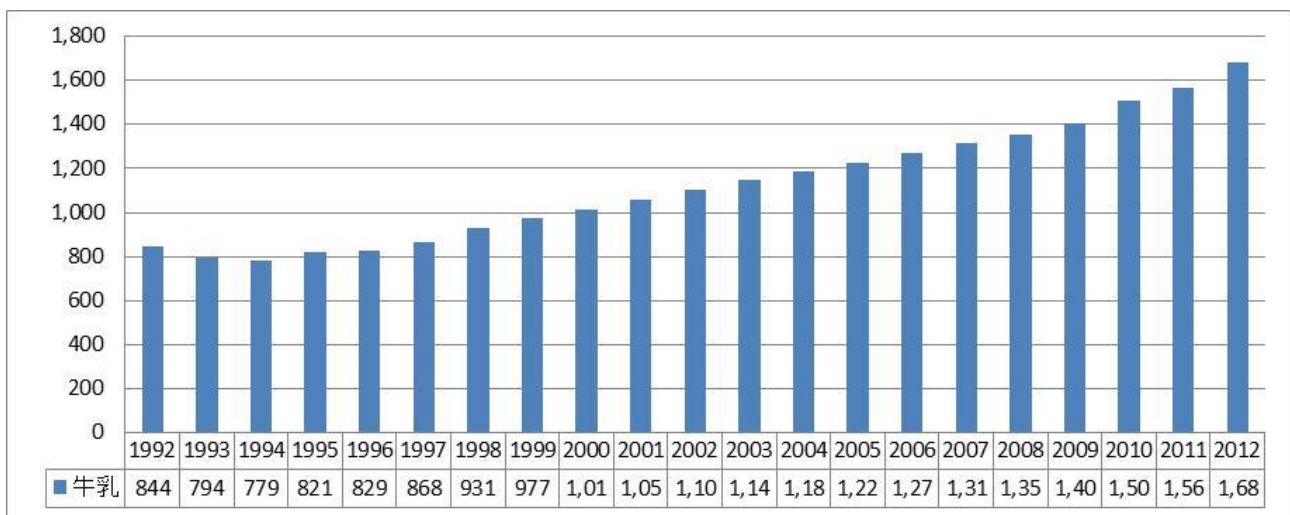
羊肉の生産量の推移(千トン)



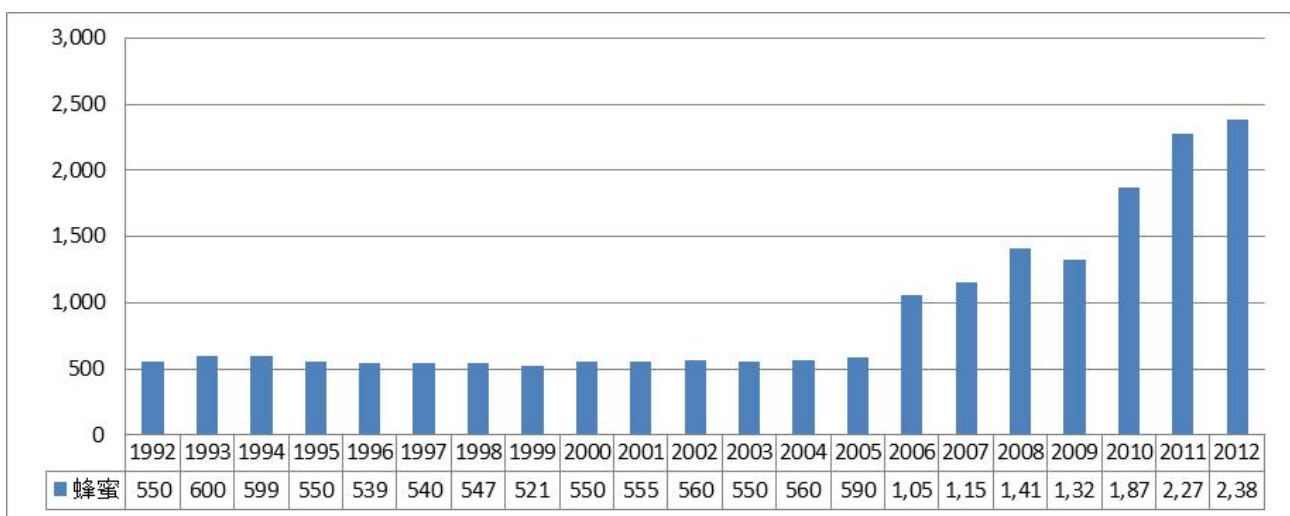
鶏肉の生産量の推移(千トン)



鶏卵の生産量の推移(百万個)



牛乳の生産量の推移(千トン)

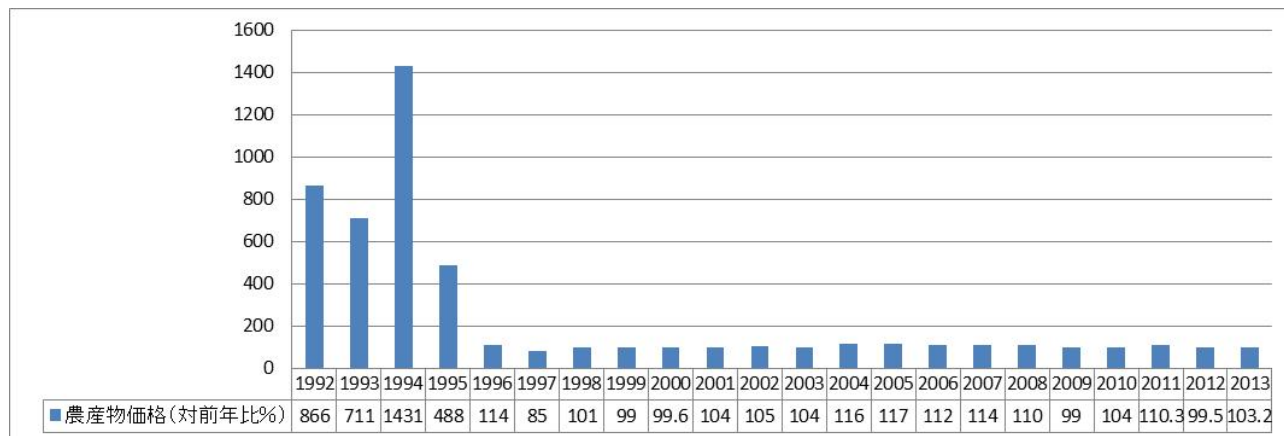


蜂蜜の生産量の推移(トン)

※以上 8 点、出所：FAOSTAT

5) 主要農林水産品の価格

ソ連崩壊により、農業の栽培作物の専門化といったシステムも機能不全となり、農産物の価格は高騰した。現在もロシアに依存している状況は変わらないが、1996年以降は安定傾向を示している。



出所：CIS 統計委員会

農産物価格の前年比の推移(%)

2. 農林水産関係国家政策

全労働人口の3分の1超の農業就業者を抱えるアゼルバイジャンは1990年代中頃より、農業部門に積極的に財政的支援を行ってきた。ソ連崩壊後アゼルバイジャンは最も迅速に農地改革を行い、世界銀行、FAOなどの国際機関とともに農業生産支援の仕組みを形成してきた。

その具体策としては、農業部門に最新の技術を導入するために公開株式会社「アグロリージング」を設立し、鉬物肥料、農薬、技術施設、育種、小麦の種、家畜の品種改良などを導入した。また頭金20%の10年ローンで国が購入した農機具の提供を行った。

また国内市場での輸入食品の駆逐、農業部門の発展、食品の安全性の確保を目的として2008年から2015年までの国家プログラムを行った。それにより2009年には農業部門関連予算が44%増加し、3億8,820万マナトに達した。この傾向は現在も継続中である。

「アゼルバイジャンー2020年、未来への展望」原案(抜粋)

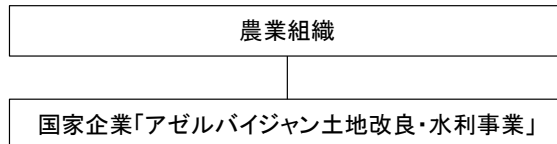
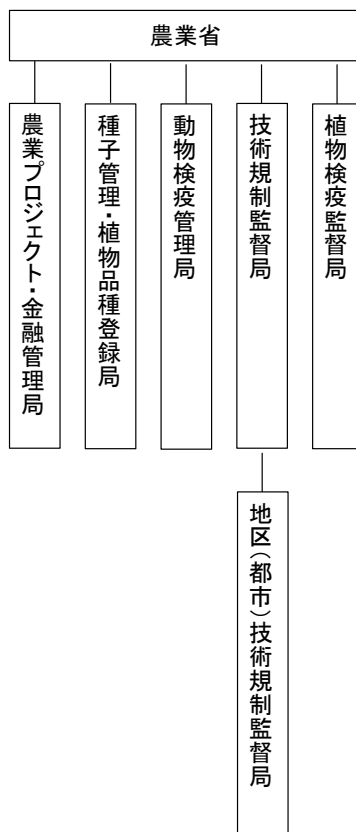
4. 競争性の高い経済に向けて

- ・非石油産業の発展という視点から重要な意味を持つ領域として、農業生産の再編に対しては特別な注意が払われることになる。最新のテクノロジーを利用することで既存の農業加工企業の生産性を向上させ、さらに新しい企業を創設することを目的とした複合的対策が実現されることになる。
- ・農業部門の集中的・効果的発展を促すための国家支援対策は、外国の実例に従い行われることになる。
- ・民間の銀行および融資組織が農業部門へ資金提供すること、農業保険のメカニズムの改善を一層奨励するような環境を創設するための追加対策が行われる。その結果、農業における生産性が向上し、農村の住民は外国の最先端の実地経験をより身近に知ることができるようになる。
- ・将来、国内においては土地市場が発達し、自発的な共同農業の形成が奨励されることになる。土壌浸食の防止、および灌漑が行われる作付面積の塩化を防止し、肥沃度を向上させることを目的とした土地改良および灌漑対策が強化される。
- ・環境的にクリーンな農作物および食品の国内での生産が促進される。さらに、遺伝資源と生物多様性の保護、養殖・育種・品種改良の向上を目的とした対策が実施される。
- ・農業生産者に対する最新のテクノロジー、肥料、種子および苗の保障が改善される。
- ・農業セクターにおける職員の教育・研修も今後改善される。農業のさまざまな分野での集中的発展の刺激策が実施され、大規模な穀物生産拠点の形成に関するイニシアチブが支援されることになる。
- ・農業の集中的発展の視点から、地方に最新テクノロジーを装備した倉庫を建設すること、季節ごとの農作物の価格を調整し、農作物のロスを防止し、国内市場を保護し、輸出の潜在力を向上させることの意義を考慮し、これらの分野での一貫した対策が継続される。

11. 環境保護とエコロジーの問題

土地資源の効率的管理のために、砂漠化の防止、産業および採掘施設の活動により劣化した土地の再生、農業に適した土地の利用制度の改善、人為的汚染からの土地の保護の強化を目的とした対策が実施される。

3. 農林水産関係政府機関・団体

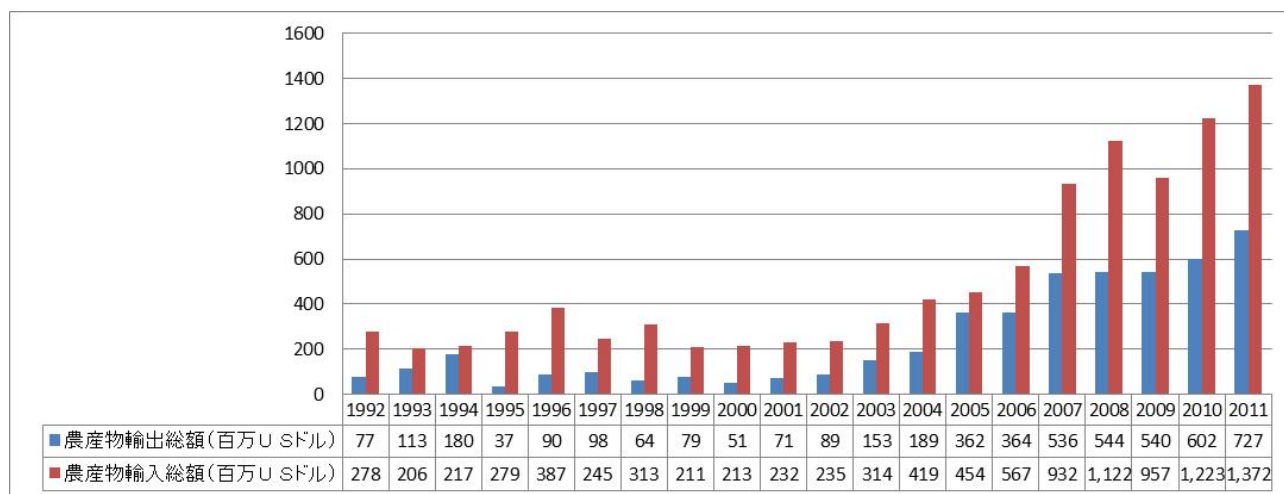


出所：アゼルバイジャン政府 HP

4. 農林水産貿易の概況

(1) 貿易状況

アゼルバイジャンは原油、石油製品の輸出により貿易は好調であり、貿易収支は2010年から4年連続黒字であるが、農作物がそこに占める割合は小さい。例えば2010年の海外への輸出総額が約213億米ドルのうち、農作物の輸出は6億200万米ドルとわずか2.8%に過ぎない。一方輸入に関しては、2010年の輸入総額65億米ドルのうち農作物は約12億米ドルとおよそ20%を占めている。このことから、食品の多くを輸入に依存しているアゼルバイジャンの経済構造が明らかである。



出所：FAOSTAT

農産物輸出入総額の推移(百万米ドル)

(2) 輸出

前述のように、輸出に占める農作物の割合はきわめて小さい。2011年までの過去10年間で農産物の輸出は8,947万米ドルから7億2,707万米ドルへと増加した。

輸出農産物上位5品目(2011年)

| 品目名 | 輸出額 (百万米ドル) | 農産物総額に 占める割合 (%) |
|------------|----------------|---------------------|
| 精製糖 | 198 | 26.9 |
| 殻付きヘーゼルナッツ | 57 | 7.9 |
| お茶 | 32 | 4.4 |
| トウモロコシ油 | 32 | 4.4 |
| トマト | 32 | 4.4 |
| 上位5品目計 | 352 | 48.4 |
| 上記以外農産物計 | 375 | 51.6 |
| 農産物総額 | 727 | 100.0 |

出所：FAOSTAT

(3) 輸入

アゼルバイジャンは輸入総額のうち 20%超を農作物を中心とした食品が占めている。とりわけ小麦、砂糖など日常的に消費する食品の需要の多くを輸入に頼っていることがうかがえる。しかも過去 10 年間をみると、2001 年の 2 億 3,200 万米ドルから 2011 年の 13 億 7,200 万米ドルと 6 倍近く輸入量が増えていることがわかる。2011 年は農作物の輸出額が 7 億 2,700 万米ドル。貿易収支全体では大きな黒字傾向にあるにもかかわらず、農作物に限定するとおよそ 6 億 5,000 万米ドルの赤字である。しかし、野菜と果物の輸入量は 2014 年は 2013 年に比べて 13.5%の減少であった。これは地方での生産性の向上によるものである。

輸入農産物上位 5 品目(2011 年)

| 品目名 | 輸入額 (百万米ドル) | 農産物総額に 占める割合 (%) |
|----------|----------------|---------------------|
| 小麦 | 282 | 20.6 |
| 紙タバコ | 249 | 18.1 |
| 粗糖 | 167 | 5.7 |
| チョコレート製品 | 34 | 2.5 |
| 椰子油 | 32 | 2.3 |
| 上位5品目計 | 755 | 55.0 |
| 上記以外農産物計 | 617 | 45.0 |
| 農産物総額 | 1,372 | 100.0 |

出所：FAOSTAT

5. 農業投資状況

(1) 農業投資概況

近年、アゼルバイジャンの農業部門への投資は増加傾向にある。過去10年間にアゼルバイジャン農業への投資額は15倍になった。例えば、2006年は、2005年と比較すると農業部門への投資が42%増である。とりわけオランダ企業からの投資額が大きく、農業は、通信、工業と並び、大きな投資を呼び込んでいる。その結果、過去10年間におけるアゼルバイジャンの農業生産は3倍となり、農業従事者の給与は9倍となった。

政府による全投資に占める部門別の割合の推移(%)

| 部門 | 2000 | 2005 | 2009 |
|----------------|------|------|------|
| 工業 | 68.1 | 72.3 | 41.5 |
| 農業・漁業・林業 | 0.7 | 0.7 | 3.4 |
| 建設 | 0.4 | 0.8 | 0.4 |
| 輸送・通信 | 9.2 | 11.6 | 24 |
| 商業(自動車修理、日用品等) | 3.4 | 1.4 | 3.1 |
| その他 | 18.2 | 13.2 | 27.6 |

出所：CIS統計委員会

(2) 他ドナーによる支援

2014年にはフランス企業がアゼルバイジャン農業に投資することが決定された。これは土地の売買、農作物販売に特化した組合の創設に関する協力、運営、またフランスからの家畜の導入など、アゼルバイジャン農業の発展を促すというものである。

1) 国際連合食糧農業機関 FAO

戦略目標別プロジェクト

アゼルバイジャンの企業のために FAO 資金により進行中のプロジェクト(2014年1月1日現在)

技術協力プログラム (TCP)

| 記号 | 名称 | 期間 | 予算総額 (米ドル) | 2014/1/1 現在 使用可能額 |
|------------------|--------------------------------|-----------|---------------|----------------------|
| TCP/AZE/ 3402 | 病気がないジャガイモの種のアゼルバイジャンにおける生産の発展 | 2013-2014 | 380,000 | 272,679 |
| TCP/AZE/ 3403 | 改善された価値連鎖の調整能力の向上と制度の発展 | 2014-2015 | 305,000 | 305,000 |
| TCP/AZE/ 3501 | TCP Facility TCP施設 | 2014-2015 | 106,000 | 0 |
| TCP/AZE/ 3502 | アゼルバイジャンにおける牛の繁殖と人工授精サービスの発展 | 2014-2016 | 360,000 | 0 |
| TCP/SEC/ 3403 | 中央アジアにおける国家植物衛生監督業務の能力強化 | 2014-2015 | 425,000 | 0 |

FAO 信託ファンドと国家の共同プログラム(TF/GCP)

| 記号 | 名称 | 期間 | 予算総額 (米ドル) | 2014/1/1 現在 使用可能額 |
|---------------------|---|-----------|---------------|----------------------|
| GCP/AZE/ 006/TUR | アゼルバイジャンにおける有機農業の発展と制度の能力構築 | 2014-2016 | 0 | 0 |
| GCP/GLO/ 275/EC | 食糧安全保障に関する意思決定改善のための情報システムに対するEC/FAOプログラムFOOD2009/223-068 | 2009-2013 | 4,171,213 | 143,770 |
| GCP/INT/ 123/MUL | 経済協力機構加盟国における種子部門の発展 | 2013-2015 | 400,000 | 323,432 |
| GCP/RER/ 028/TUR | アゼルバイジャンとトルコにおける世界農業遺産 (GIAHS) の識別、評価、管理 | 2010-2014 | 250,000 | 164,674 |
| GCP/RER/ 031/TUR | 水産業および水産養殖発展のための中央アジア地域プログラム(FISHDEV - CA) | 2009-2014 | 1,799,998 | 275,341 |
| GCP/RER/ 040/EC | 旧ソ連における危険な化学物質を含むため廃止された未使用の農薬の再使用の防止能力の改善 | 2012-2015 | 8,000,001 | 5,252,688 |
| GCP/RER/ 042/GFF | 中央アジア諸国とトルコにおける農薬のライフサイクルマネジメントおよび残留性有機汚染物質含有農薬の廃棄(PPG) | 2014-2015 | 200,000 | 0 |
| GCP/RER/ 044/TUR | 食糧安全保障のためのECO地域調整センター (RCC-FS) | 2013-2016 | 499,211 | 341,644 |
| GCP/SEC/ 001/TUR | 中央アジア諸国における牛の生産性向上 | 2011-2014 | 600,000 | 323,661 |
| GCP/SEC/ 002/TUR | 中央アジアおよびコーカサスにおける山岳部流域の持続的管理のための能力開発 | 2012-2014 | 300,000 | 231,294 |
| GCP/SEC/ 004/TUR | コーカサスおよび中央アジアにおけるより良い国家および地域のイナゴ管理 | 2012-2017 | 600,000 | 0 |
| GCP/SEC/ 006/TUR | FAO-GIEWS 価格データベースと分析手段 | 2013-2014 | 150,000 | 126,014 |
| GCP/SEC/ 007/TUR | 持続的農村開発の社会経済面およびジェンダー面における農村女性の能力開発支援 | 2013-2015 | 250,000 | 249,409 |

その他の信託ファンド (TF)

| 記号 | 名称 | 期間 | 予算総額 (米ドル) | 2014/1/1 現在 使用可能額 |
|---------------------|---|-----------|---------------|----------------------|
| GCP/INT/ 062/GFF | 東ヨーロッパ、コーカサス、中央アジア諸国における廃棄農薬と残留性有機汚染物質含有農薬の管理能力の構築(FSP) | 2009-2012 | 1,000,000 | 0 |

2)世界銀行

| | |
|----------|---|
| プロジェクト名 | P122812 農業競争力改善プロジェクト |
| 国 | アゼルバイジャン |
| 地域 | ヨーロッパおよび中央アジア |
| 認可日 | 2013年9月30日 |
| 完了日 | 2018年12月31日 |
| プロジェクト総額 | 5,325万米ドル (世銀およびノンバンク融資) |
| 拠出額 | 3,450万米ドル |
| 概要 | 衛生・植物検疫サービスの向上、バリューチェーン強化、農業企業への金融サービスの提供などによって農業生産者の市場への参入を促進することが目的である。 |